市庁舎の再設計にあたっての強いメッセージを出し、市民との絆を再構築

①建設コストの縮減。既存体育館も生かし、約２億円縮減。人口減に対応し減築可能なコンパクト市庁舎。〈業務の基本的な取組方針〉

- 旧校舎棟に加えて、**旧体育館棟を活用することで、イニシャルコストを約2億円削減。**再設計にあたって、**市民に対して強いメッセージを出します。**
- 将来の人口減に対応しながら減築できる、**縮小時代のモデルとなるコンパクトな庁舎。**
- 既存の活用棟（旧校舎）と執務棟（旧体育館）、新築の議会棟とをワンストップ窓口棟でつなぐ**コンパクトで利便性の高い提案**します。
- **シンプルな架構**で、**将来の変化にフレキシブルに対応できる平面計画。**
- **主機能を２階以上とし、水害に対して強く、安心安全な新庁舎**をつくります。
- **Nearly ZEBを実現。**ランニングコストや将来的な維持管理費を最小限に抑えます。

②下田市民の声と専門家の技術をつなぐチーム体制。設計プロセスの中でコストの徹底管理を実現する。〈体制〉

- 私たちは**全国各地の公共施設やまちづくりのプロジェクトに携わる意匠設計事務所を中心とした設計チーム**です。
- 管理技術者、意匠主任技術者はこれまで、規模の大きい公共施設の実績も多く、**洪水対策を行った教育施設の実績**があり高い技術と経験を有します。
- **特に、設計チームと積算事務所とのコミュニケーションを綿密**に行い、設計プロセスの中でのコスト管理を徹底できる体制に努めます。
- **活用棟の設計者と綿密にコミュニケーション**を図りながら設計を進め、プロジェクトスケジュールの遅延、問題が発生しないよう努めます。

③情報公開の徹底。市庁舎建設に関する最新の情報を市民に発信をする拠点をつくり、気運を醸成する。〈情報提供の手法〉

- **下田市の中心市街地や現行市庁舎のロビーなどに、市庁舎建設に関する最新の情報や設計プロセスを展示**するなど、**情報発信のための拠点をつくります。**
- 市庁舎づくりに関心を持つ市民の皆さんとのコミュニケーションの場とし、再度、**市庁舎建設に向かっての気運づくりを心がけます。**
- **下田市の複数箇所に本建設に関する目安箱を設置**し、市民の意見を吸い上げます。

地域に開かれた情報発信スペース

目安箱

④ワークショップによる開かれた合意形成。インクルーシブな議論を行い、皆で下田市の未来を構想する。〈ワークショップの手法〉

〈設計内容の検討手法、設計の調整方法〉

- 設計初期段階で、ワークショップを行い、**地元の中学・高校生**をはじめとする多くの若者たちの情熱と、**長年下田市に住まう高齢者の方々**、**実際に市役所で働いている方々**など、様々な人のアイディアを取り入れ、**開かれた合意形成を目指します。**
- 多世代の方々と積極的な交流を促し、**新しい時代の下田市を構想する重要なメンバーを養成する**機会とします。

大きな模型をつかったワークショップ

⑤徹底したコスト＋工程管理。地域イベントに合わせた情報公開。〈工程計画〉

- **チェックシートを用いながら設計**を進めることにより、必要な検討作業を網羅し、タイムリーにチェックすることで**時間ロス、手戻りを解消**します。
- 設計初期段階から適切なコスト目標を設定し、それに向かって設計の中で常に適切な取捨選択をすることで工程をコントロールします。
- **体育館解体で議会承認をしている状況を鑑み、体育館部分の新築化も並行して検討し、議会のタイミングに合わせて両方に対応可能なスケジュールで設計を進めます。**

○下田市民の絆を深める市庁舎設計 〈テーマ外で特に配慮する事項について〉

- 下田市の新庁舎建設は不調が一因でプロポーザルがやり直しになったり、選挙戦の争点になっていたりという状況の中、**再設計にあたってのはっきりしたメッセージを打ち出し**、市民の皆様への情報公開や、地域を巻き込んだワークショップを徹底することで、**市民の皆様が下田市に対して愛着をもってらえるきっかけになるよう努めます。**